

県政を身近に! 挑戦!実行!!



香川県議会議員

さといし 明敏の県政報告

第2号 令和6年春

つなぐ

ごあいさつ

早春の候、皆さま方におかれましては、益々ご繁栄のこととお慶び申し上げます。

皆さまのご支持を賜りまして、私も香川県議会議員として1年半が経ち、環境建設委員会、少子化対策委員会の各副委員長、監査委員として経験を積ませていただき、2期目の議員としての役割、そして責任の大きさを実感しており、これまで以上に県政の発展に尽力してまいりたい所存でございます。

辰年は通常飛躍の年と言われますが、本年は能登半島地震や羽田空港事故で始まり、波乱の年明けになりました。被害にあわれた方にご冥福を、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

これらの災害などは他人事ではなく、我々も大地震に備え、今一度防災・減災対策に真剣に取り組まなければならないと痛感しました。

また、瀬戸内海国立公園が指定90周年を迎えるにあたり、本年3月に屋島で開催されるキックオフイベントを皮切りに、記念事業が始まります。これを契機に、地域の活性化、海を活用したまちづくり、安全で安心して生活できる環境づくりを進めます。

今できること、そして将来につながる取り組みを着実に進め、皆さまが住みよい、住みたいまちになるように、これからも尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

南米訪問

令和5年10月10日から19日までの10日間、パラグアイ、ブラジル、アメリカ・ロサンゼルスを訪れました。周年記念式典に出席したほか、各県人会や大使館、総領事館等の方々との意見交換では、より一層絆を深め、友好親善関係の強化を図るとともに、青年交流や県内企業の進出、県産品の販路拡大などの促進、本県のPRなどの協力をお願いしてまいりました。近年、県人会は、縮小や廃止傾向にある中、「南米各地からこの日のために訪れた日系人の方々と、知事および県会議員ができる限り交流し、日本の話をする機会をつくること、ひいては県人会の維持と発展に大いに寄与する」とのご意見を伺い、交流事業の継続の大切さを改めて実感しました。



在パラグアイ日本国大使公邸訪問



アメリカの大手スーパーマーケットを視察

委員会視察

環境建設委員会

「自然公園の魅力向上」および「道路・都市計画行政」をテーマに、熊本県と福岡県を視察しました。

熊本県・阿蘇地域



阿蘇地域の魅力発信、にぎわい創出のための取り組みとして、AR技術を用いて楽しみながら雲仙天草国立公園について学べる特色ある展示

福岡県・天神エリア



民間投資を活用して老朽化ビルの建替えを促進、歩行者空間を整備するなど官民一体となったまちづくり

皆さまのご意見・ご要望をお待ちしています。

さといし明敏事務所

香川県高松市屋島西町 2285-23 (自宅)
TEL&FAX 087-844-4743
<https://www.satoishi-akitoshi.com>
E-mail satoishikouenkai@gmail.com

少子化対策特別委員会

アフターケア相談所ゆずりは(東京都国分寺市)

児童養護施設等を巣立った方や、虐待等で孤立した方の住まい、仕事、病気などの相談・サポート、生活保護、支援措置、通院への同行等を実施



株式会社技研製作所(東京都江東区)



働きやすい職場環境づくりに向け、育休取得を阻む不安や課題を洗い出し、社内説明会で意識改革を進めた結果、2022年度に男性社員の育休取得率100%、平均取得日数96日を達成

株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY(東京都江東区)

英語学習の意欲向上を図るため、革新的な体験型英語学習施設として、海外をイメージした店舗・ホテルや航空機内等のエリアを設け、能力に応じた多彩なプログラムを体験



東京みらい中学校(東京都足立区)



不登校の児童生徒に学びの場を提供するため、足立区の公募で選定された中学校(令和6年4月開校)、ライブラリーラウンジなど安心できる居場所を設置。学校らしくない、明るい色彩の校舎で、体験学習やICTの活用など特色あるカリキュラムを実施

令和5年6月議会 一般質問

2023年7月5日、6月定例議会の一般質問でさとし明敏議員は、県立公園の魅力向上、アイパル香川の利用促進など5項目について、理事者の見解をいただきました。

1 県立公園の魅力向上

里石 県立公園をより魅力的な場所にするために、民間活力を生かした取り組みをどのように進めていくのか。

知事 さぬき空港公園では、花見シーズンにキッチンカーの出店スペースを設け、新たなサービスを提供した。瀬戸大橋記念公園では、民間事業者が実施するイベントやスポーツ大会での活用を促進するとともに、本年4月の瀬戸大橋開通35周年を記念して、公園の新たな撮影スポットとなるアーチ型モニュメントを設置した。



さぬき空港公園

2 アイパル香川の利用促進

里石 高松市立中央公園の再整備計画が進む

3 空き家対策

中、アイパル香川を魅力的な施設にするための考えは。

知事 高松市中央公園の再整備検討委員会に県も参画しており、今後、利用者がスムーズに双方の施設を移動できる動線の確保、公園に新設される飲食施設での外国の食フェアやその国の理解を深める講座の開催のほか、公園でイベントを開催する時は、空きスペースを休憩所として開放するなど、柔軟な施設運用を提案していく。

里石 県の空き家率が全国8位と高水準である。空き家バンクの利用状況と、空き家対策について伺う。

知事 市町や関係機関などと連携し、住まい探しのサポートを充実していくほか、不動産、建築の専門家による空

き家対策の相談、各種支援制度や相談窓口などを集約した「香川県空き家ガイドブック」の配布など、啓発活動を引き続き進めていく。また、空き家所有者への財政的支援、「空家等対策の推進に関する特別措置法」の改正による変更点なども周知していく。

4 保育施設のICT化

里石 保育の現場でICTを活用することで、保育士の業務負担軽減、長く働ける環境づくりにつながると思うが、知事の考えは。

知事 今年度新たに、ICTを活用した業務効率化に取り組む私立保育所などに、事業者負担を軽減する支援を開始するとともに、ICTの導入効果や導入事例、課題対応事例などの情報を発信し、保育士が長く働ける環

境づくりや保育の質の向上につなげていく。

5 ため池の保全管理

里石 受益地のないため池や個人所有のため池の保全管理を、今後どのように取り組んでいくのか。

知事 「第12次老朽ため池整備促進5か年計画」において、県が実施した「劣化状況評価」の結果、老朽度が高く、受益地がなくなり、防災上放置できない「防災重点農業用ため池」など90箇所を対象に、廃止工事を計画的に進めていく。また、地元関係者や市町と連携し、工事が円滑に進むよう取り組んでいく。



令和5年11月議会 一般質問

2023年12月12日、11月定例議会の一般質問でさとし明敏議員は、海外との友好関係強化、パラスポーツの推進など4項目について、理事者の見解をいただきました。

1 海外との友好関係強化

里石 南米・米国訪問を経て、今後、南米との若年層の交流拡大および、栗林公園とハンティントン財団庭園との姉妹庭園による両庭園の友好関係をどのように強化していくのか。



ブラジル香川県人移住110周年記念式典

知事 現地県人会から交流継続の要請を受け、

海外技術研修員の受け入れや、県内大学生のブラジル派遣、SNSを活用した青少年の相互交流などを検討していく。

ハンティントン財団からは、栗林公園と庭園管理に関する人的交流や、伝統工芸品などの展示、瀬戸内国際芸術祭のアーティストとの交流、財団関係者の本県への訪問の四つの提案をいただいた。同財団や現地県人会とも意見交換を重ねながら、具体的な取り組みにつなげていく。

2 パラスポーツの推進

里石 令和6年9月に高松市で「2024

ジャパンパラ陸上競技大会」、7年には「東京2025デフリンピック」が開催される。障害への理解やパラスポーツの推進について県の取り組みは。

知事 大規模な障害者スポーツの大会を、障害への理解やパラスポーツの推進する良い機会と捉え、積極的な普及啓発活動を行っていく。また、世界で活躍するパラスポーツ選手を本県から輩出することが、県民のパラスポーツへの興味を持つきっかけにつながると考え、有望な選手の強化支援や、障害特性に応じた指導者を養成していく。

3 サンポート高松周辺のまちづくり

里石 サンポート高松地区および高松市中央卸売市場など周辺エリアの再開発計画について、今後のビジョンをお聞きたい。



JR高松駅北側道路を北へ望む（イメージ）

知事 県は、キャッスルプロムナードの整備やサンポート高松地区のプロムナード化を検討している。高松市も中央卸売市場青果棟の移転に伴い、商業・観光施設を中心に民間活力を導入したにぎわい拠点づくりが進んでいる。中央卸売市場や市民プール跡地を含むサンポート高松地区周辺エリアを一体的に捉え、高松市と連携しながら計画の具体化を進めていく。

4 GIGAスクール構想

里石 学校現場で児童

生徒が1人1台端末を使用しているが、健康面や学習面の影響についての対策と今後の取り組みをお聞きたい。

教育長 健康面では、視力や姿勢への影響があることから、目と端末の距離の確保や適度な時間での活用など、具体的な改善策を示し、各学校には日常観察や学校健診を通して状況の確認を求めている。

学習面では、児童生徒がインターネット上の不確かな情報を鵜呑みにしたり、他人の著作物を利用することがないよう、発達段階に応じた情報活用能力の育成とともに、最新の知識に基づいた適切な指導ができる教員を育成するための研修の充実を図っている。今後健康面、学習面の両面から、必要かつ具体的な対策を講じていきたい。